



赤ちゃん・ちびっこ通信

Vol. 12 (2016年3月発行)

日頃は「赤ちゃん研究員」にご登録、ご協力をいただき、まことにありがとうございます。お忙しい中、調査室までお越しくくださった保護者の皆さま、ご自宅での調査にご協力いただいた皆さま、まことにありがとうございました。今回は残念ながら予定があわなかった方、また調査の対象年齢の都合で残念ながら調査をお願いできなかった方には、たいへん申し訳ありませんでした。「赤ちゃん研究員」の皆さまのお力添えで、13年目となる九州大学「赤ちゃん・ちびっこ研究員」には、3月現在で482名の方（ご卒業された方も加えるとこれまで1709名の方）にご登録・ご協力を頂いています。

調査を通して得た発見や貴重な情報を、学会で発表したり、論文や文章にまとめたりして、時間はかかりますが「きちんと」お伝えすることをスタッフ一同心がけております。また、その発見や知識が、赤ちゃん・お子さん、保護者の方にご協力いただいたことによって成り立っていることを忘れずに、日々の調査・研究にあたりたいと考えています。

今年度は、下記にご紹介するような調査を行ってまいりました。中には、現在論文として投稿中の研究もあります。これからも新しい調査をたくさん予定しております。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします！

今年度ご協力いただいた&現在進行中の調査をご紹介します

昨年度と今年度ご協力いただいた調査は、「第9回アメリカ北東部進化心理学会学術集会」（アメリカ・ボストン 2015年4月）、「日本心理学会79回大会」（名古屋 2015年9月）、「日本赤ちゃん学会第15回学術集会（香川 2015年6月）」等の学会・研究会で順次発表させていただきました。

赤ちゃん研究

「イナイナイバア」がなぜおもしろいのか？ ～笑顔が消失・出現したとき～

担当者：丸田弥音 対象：4～9ヶ月児

初期相互遊びであるイナイナイバア遊びを赤ちゃんが楽しく経験することはよく知られていますが、なぜでしょうか。イナイナイバア遊びの特質は(1)「(大人の顔の)消失からの出現」にあることは、これまでの研究結果から考えられます。また、(2)大人が赤ちゃんに笑いかけながら遊びを行う傾向があることは日常観察からいえるでしょう。しかしながら以上の仮説に関する実証的な議論はほとんどされていません。そこで本研究では、(1)顔が隠されるかどうか、および(2)笑顔が伴うかどうかによって、イナイナイバア遊びの映像を見る赤ちゃんの反応がどのように変化するか調べました。

他者間のやりとりを乳児がどのように見ているのか

担当者：孟憲巍 対象：8～20ヶ月児

発達初期から乳児が他者の笑顔を好んだり、他者の視線や指差しの方向を追ったりすることは、これまでの赤ちゃん研究で示されています。しかしながら、乳児は必ずしもいつも「自分と他者」という二者間やりとりの中にいるわけではありません。他者同士のやりとりを、そのやりとりの「外」にいる乳児はどのように理解しているのでしょうか。今回は、二人の大人が互いに見あったり、背を向けたりする場面の動画を乳児に見てもらい、どのように画面上の注視位置（画面のどこをどの順番で見っていたか）を計測する装置（Tobii TX300）を用いて調査しました。

ちびっこ研究

幼児にとっての「内集団」：二者間の競合場面に対する注視行動

担当者：前山航暉 対象児：3～4歳児

私たちは、同じ出身地の人に親近感を感じたり、同じ歌手が好きな人を好きになったりすることがよくあります。そういう共通点を持つ相手を「仲間」と感じてしまう傾向は、社会や集団のなりたちを考える上で重要なものと考えられています。これまでの研究で、子どもや赤ちゃんの頃から、性別やことばなどについて、自分と似た特徴を持つ人物やキャラクターを好むことがわかってきました。どんな特徴を手がかりにそういった好み成り立っているのか、どのような場面で好みの偏りが生まれるのか、などについてはまだわかっていないことがたくさんあります。そこで、いろいろな特徴をもつキャラクター2人（お子さんと同じ特徴を持つキャラクターと、お子さんと違う特徴を持つキャラクターのペア）が競争する場面（すもう）の映像を見せた時の、お子さん注視行動を調べました。

他者の「心の状態」の理解に感嘆詞・間投詞が及ぼす影響

担当者：宇土裕亮 対象：4～6歳児

何か失敗してしまったとき、なにげなく「あっ」や「おっ」と声が出たり、気合を入れて何かをしようと意気込むときに「えい」や「やあ」と声を出したりすることがあると思います。このようなことばを「感嘆詞」・「間投詞」と呼びますが、多くの場合これらを発していることすら自分では気づかないにもかかわらず、コミュニケーションの中では重要な意味を持っていると考えられています。子どもたちは発達の中で感嘆詞をどのように身につけるのでしょうか。4～6歳児を対象に、「あっ」や「えい」という音声を発しながら様々なことをするモデルの動画を見てもらい、「モデルが本当にやろうと思っていたこと」を真似するときの手がかりとして感嘆詞がどのように利用されるかを検討しました。

“因果応報”的ストーリーへの期待とその発達

担当者：山手秋穂 若藤礼子 対象：5歳児

私たちは人物の人柄や行動に注目して、「悪いやつだから“ばち”があたればいい」と思ったり、「日頃の行いがよかったから宝くじが当たった」といった話をしたりすることがあります。このように、本来、物理的な因果関係がないにもかかわらず、「善いことをした人にはよいことが起き、悪いことをした人には悪いことが起きる」といった「因果応報」的な物事のとらえ方は、いろいろなところで見られます。このような物事のとらえ方は、子どもでも見られるのでしょうか？ 私たちは、登場人物の行動やストーリー中で起こる出来事を変えたいいくつかの種類のお話をお子さまに見ていただき、物語の結末を選んでもらう課題をしてもらっています（現在進行中）。



研究室からのお知らせ

- 私どもの研究室では現在、0～6歳頃までのお子さんと保護者の方に調査のご協力をいただいております。0～1歳のお子さんを「赤ちゃん研究員」、2歳～就学前までのお子さんを「ちびっこ研究員」としてご登録させていただいております。登録の切り替えは毎年4月に行っております。4月時点で2歳になられているお子さんにつきましては自動的に「ちびっこ研究員」へと登録を移行させていただいております。引き続きのご理解、ご協力をお願い申し上げます。
- お引越しなどで登録内容（電話番号・住所など）に変更が生じた場合は、ご連絡いただければ幸いです。また、遠方へのお引越し等で登録の解除を希望される場合は、その旨をご一報いただければ大変ありがたいです。こちらで変更の手続きをさせていただきます。
- 4月に小学校へ進学される皆さま、ご入学おめでとうございます。「赤ちゃん・ちびっこ研究員」の登録は就学年齢で終了とさせていただきます。長らくのご協力、まことにありがとうございました。ご登録いただいていた個人情報はこちらで責任を持って削除させていただきます。

九州大学 人間環境学研究院・教育学部 発達心理学講座
橋彌 和秀（はしや かずひで）准教授
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1（教育心理棟3階307号室）
TEL & FAX (092) 642-3143
✉ babykyushu@yahoo.co.jp

 <http://www.babykyushu.org>

